

# 道南

題字は二上達也9段揮毫

発行 2023年8月1日  
発行所 北海道道南会事務局  
連絡所 茨城県取手市西1-6-C-907  
TEL&FAX 0297-74-7576  
ホームページ  
<http://hokkaido-dounankai.com/>

## 中村隆俊顧問を偲んで

北海道道南会会長 葉袋 泰  
七重小出身



2019年12月に中国にて端を発した新型コロナウイルス感染症との戦いは、ワクチン接種を重ねたものの、昨年末には第8波の到来となり、いまだ収束には至りません。今年5月8日から新型コロナウイルス感染症の位置づけが「2類相当」から「5類」に引き下げられたことで、4年振りに大幅な規制緩和となり、経済的効果に軸足が優先された事により、猛暑の続く厳しい暑い中、街には多くの人々が溢れ出て大賑わい。レジャーを楽しむ人は、海に山へと足を運び、旅行者

も多くなり、特に外国人の観光客も3年前に戻りつつあり、活気溢れる情景が全国各所で見られます。都内の観光名所の浅草は、身動きが取れないほどの人出の様子がテレビに映し出されております。

今年も連日例年に無い猛暑の日が続く、熱中症で倒れる人が続出。東京都心は今年初めて35度以上の猛暑日を記録しました。環境庁は、東京、埼玉、千葉、茨城など9都県に「熱中症警戒アラート」を発表。気象庁は、外出はなるべく避け、運動は行わないよう呼びかけています。特に高齢者には注意が必要だとして、「室内エアコンを使い、積極的に水分補給をしてほしい」と促しています。沖縄県では規制緩和に伴い、多くの観光客が訪れた事により、コロナの感染が拡大し医療

施設の確保で大混乱。専門家から「第9波」の可能性が指摘されており、更なる警戒が必要です。

顧問 中村隆俊さまを偲んで  
戸田中央メデカルケアグループ創立者、中村隆俊名誉会長は、2022年12月9日に95歳で永眠されました。お別れの会が、2023年3月21日(火・祝)ホテルニューオータニ「鶴の間」にて執り行われました。式典冒頭では、中村名誉会長の歴史を振り返る追悼映像が約10分間放映され、ご本人の肉声を交えた貴重な映像に、会場では涙ぐむ方もいらっしやいました。祭壇には、穏やかな表情を呈した中村名誉会長の遺影が掲げられ、埼玉県知事の大野元裕氏らが弔辞を述べられました。会場には親交のあった医療、政財界等の関係者、約2,000人が参列。白いカーネーションの花を献花台にささげ、冥福を祈りました。

ありがとうございました。

2020年には、「北海道道南会」創立60周年記念事業の一環として、恒例の「ふるさと訪問旅行」を企画し、行先を中村顧問の出身地、せなな町(瀬棚町)を選び、顧問の関係のあるところを中心に計画しました。沼崎相談役と一緒に訪問した際、この企画をお話ししましたら、顧問は私も一緒に行きたいなど冗談交じりに笑顔でお話ししていた時の顔が今でも思い出されます。

結果的には、新型コロナウイルス感染症のまん延に伴い、「ふるさと訪問旅行」は中止となりましたが、創立65周年記念事業「ふるさと訪問旅行」として、計画して見たいと思っております。

道南会の夏季懇親会は、現在の感染状況を踏まえ、感染対策を十分に行い4年振りに開催する事と致しました。会場は、ホテルラングウツドです。各ふるさと会や同窓会もそれぞれ感染対策を行いながら開催されております。

# 函館市便り

函館市長 大泉 潤



すことは、葉袋会長をはじめ歴代会長、役員、会員の皆様のおかげであり、心から敬意を表しますとともに、日頃から、函館市の発展に特段のご支援、ご尽力を賜り、厚く御礼申し上げます。

函館市長の大泉でございます。この度、市民の皆様からご支持をいただき、市政を担わせていただきこととなりました。光栄に存じますとともに、責任の重さと使命感に、身の引き締まる思いであります。

北海道道南会の皆様におかれましては、昭和35年の創立以来、60年を超える長きにわたり、「ふるさと道南」を心の絆として会員相互の交流と親睦を深め、固い結束のもと、幅広い分野において活発な活動と郷土発展への貢献を続けられ、今日のご隆盛を築かれておりま

さて、世界中で猛威を振るった新型コロナウイルス感染症の流行から3年が過ぎ、5月8日に感染症法上の位置づけが5類感染症へと移行いたしました。

引き続き感染対策に留意する必要はありますが、各種イベントの開催など、コロナ前の日常によく戻りつつあります。国内の社会・経済活動も活発になってきており、当市の主要産業である観光業でも、市内の名所に多くの観光客が訪れ、賑わいが戻りつつあるなど復調の兆しが見え始めております。



函館マラソン

桜の時期には、市内の桜の名所である函館公園に30

店の露店が並び、五稜郭公園とともに4年ぶりに夜間のライトアップや火気の使用が解禁となるなど、桜の下でジンギスカンや宴会を楽しむ市民や観光客の姿が多く見られました。今年、久しぶりの開催となった5月の西部地区パル街をはじめ、6月の函館

マラソンでは3年ぶりに新規のエントリー募集をして開催いたしました。また、8月の函館港まつりでは、恒例の「いか踊り」が復活しますし、9月のはこだてグルメサーカスでは昨年よりも出店者が増えるなど、様々なイベントが以前の形で開催される予定であり、函館観光の復活に大きな期待を寄せているところであり

令和3年度から33.3%増の約11万人と大幅に増加しております。特に、垣ノ島遺跡では、昨年夏頃からAR（拡張現実）やVR（仮想現実）で縄文人の暮らしや発掘調査の様子などを自分のスマートフォンや同セクターで貸し出ししているタブレット端末で見ることができ、デジタルコンテンツを順次公開し、今年3月にすべてのコンテンツを公開するなど、世界文化遺産としてさらなる魅力の向上を図っております。

外国人観光客につきましては、令和4年10月からの水際対策緩和により、当市への観光客数は確実に回復してきております。

クルーズ船につきまして、「ダイヤモンド・プリンセス」が3年8か月ぶりに函館に入港しました。これまで港町ふ頭に入港していた同船でしたが、12万トン級まで受け入れ可能となった若松ふ頭に初入港しました。また、函館港が受け入れた客船としては過去最大

級となる17万トン級の「MSCベリッシマ」が入港するなど、過去最多の入港数であった年間47隻に並ぶ見込みであります。

航空路線では、新型コロナウイルス感染症の拡大を受け、令和2年3月から運休していた台湾の格安航空会社「タイガーエア台湾」による函館―台北（桃園）の定期航空便が、5月12日より週2往復での運航を再開し、7月からは週5往復での運航を開始しました。

市といたしましては、台湾に限らず、国内外の航空ネットワークの充実は非常に重要と考えており、アジアの航空会社に対するプロモーションを行うなど、国内外からのさらなる新規路線の就航に向けて取り組みを進めるほか、欧米からの観光客のニーズについて調査するなど、アジアからのインバウンド回復のみならず、欧米での需要拡大に向けて取り組んでまいります。

(3) 先般発表した、令和4年度の来函観光入込客数の集

計では、上期（4月～9月）では前年同期比30.5%増の約261万1千人、下期（10月～3月）は前年同期比32.4%増の約193万6千人、合計で前年比31.3%増の約454万7千人となりました。

コロナ禍にありながらも、「はこだて割」や「どうみん割」、「全国旅行支援（HOKKAIDO LOVE!）」などの観光需要喚起策の効果もあり、来函観光入込客数はすべての月で前年度を上回る結果となりました。

だが、コロナ禍前の令和元年度の年間来函観光入込客数536万9千人と比較すると完全に回復したとは言えない状況であります。

外国人宿泊客数に關しましては、令和4年10月11日からの入国制限の撤廃などを受けて、令和4年度上期（4月～9月）で約4千人、規制緩和後の下期（10月～3月）が約8万6千人の合計約9万人と大幅増となりました。しかし、コロナ禍前の令和元年度の約46万9千人と比較すると20%程度にとどまっております。

こうした状況のなか、これからの函館観光の復活、さらなる発展に向けては、「世界を函館に、函館を世界に」という理念の下、函館市内での観光消費額増大を図っていくことが重要であると考えております。

また、地域全体を活性化させるため、「観光地経営」の視点に立った戦略的な観光施策の推進が必要であると考えており、観光地域づくりの司令塔となる「観光地域づくり法人（DMO）」の設立に向け、検討を進めてまいります。

具体的な施策といたしましては、消費単価の高い訪日外国人をターゲットとして、北関東・東北地方と連携し、外国人観光客を首都圏から北に向かわせる「イースト・ジャパン・キャンペーン」の実施に向けた取り組みを進めてまいりたいと考えております。

また、観光消費額の増大を目指し、富裕層をターゲットとした観光施策（ラグジュ

アリーツリーズム）の推進に  
取り組むほか、海外誘客につ  
いて、アジアはもちろん、欧  
米向けのプロモーションの  
強化や、函館観光の長年の課  
題である入込の落ち込む秋・  
冬への対策として、集客力の  
あるイベントの開催など、函  
館の未来を創るための様々  
な施策を進めてまいりたい  
と考えております。

さらには、夜景や世界文  
化遺産の縄文文化、食など、  
函館が持つ魅力を強力に発  
信することで、消費額の増  
大につながる新たな市場か  
らの誘客を促進してまいり  
ます。

地域経済の回復・活性化  
に向けての対策といたしま  
しては、気候変動に伴う海  
洋環境の変化などにより資  
源が減少している天然コン  
ブの資源回復に向けた漁場  
の整備や、耕作されていな  
い農地の解消と雇用機会創  
出のため農業法人の参入支  
援など一次産業の振興に取  
り組んでまいります。

企業立地の促進について  
は、高等教育機関が充実し、



縄文（垣ノ島AR）

広域交通の要衝である当市の利点を生かし、サテライトオフィスの開設支援など企業誘致のさらなる促進やテレワークを中心とした移住の促進を図るほか、企業のDX化に対する支援やふるさと納税を活用した魅力ある地場産品のPRなど、各分野で取り組みを強化してまいります。ふるさと納税につきましては、年間寄付額100億円を目指すという目標に向かって、返礼品のさらなる充実を図るとともにプロモーションを強化し、当市への応援の輪をさらに広げていくことができるよう取り組んでまいります。

化、昨今の物価やエネルギー価額の高騰など市民生活も大変厳しい状況となっており、こうした多くの課題に早急に、そして大胆に取り組みなければなりません。

市民の消費や地域経済の下支えを目的に、プレミアム付商品券（1セット1万円、プレミアム率20%）を35万セット発行するほか、物価高騰等への支援対策として、低所得世帯や子育て世帯への給付金をはじめ、事業者への助成などを予定しているところであります。

当市最大の課題である人口減少への対応も急務となっております。

さらに、地域再生の起爆剤となり得る新幹線の函館駅乗り入れに関して調査を実施し、整備費や課題などについての調査・検討を行い、議会や市民の皆様と情報を共有しながら議論を深めてまいりたいと考えております。

当市においては、急速に進行する人口減少や少子高齢

挙げて取り組まなければなりません。先般、私が本部長を務める「人口減少対策本部」を立ち上げたところであり、総合的かつ効果的に対策を進めてまいります。

子育て世帯の経済的負担の軽減を図るため、第2子以降の保育料の完全無償化や学童保育における保護者負担のさらなる軽減、小学校に入学した子どもを対象とした入学祝金の支給、さらには私立学校などへの運営助成の拡充や公立はこだて未来大学の授業料無償化の対象拡大など、子どもの成長段階に応じた継続的な支援の実現をめざすとともに、必要な時に必要な支援が提供できる仕組みづくりに取り組み、子育て世代の経済的な負担を軽減し、若い年代の方がこのまちで子どもを産み育てたいと思えるよう、地域全体で温かく支える環境を整えてまいります。

この状況を打開していくため、人口減少対策に総力を



夜桜宴会

魅力が重なり合って、より多くの人の心を惹きつける、世界が目を離せないまち・函館へと進化できるような全力を傾けてまいります。

遠方より故郷の行く末をご心配されておられる会員の皆様も多いことと思えますが、私は、これからまちづくりの舵を取るにあたって、市

まちに暮らす誰もがそれぞれもつ多様な個性や能力を互いに認め合い、生かしながら充実した生活を送ることができるよう、市民の皆様と同じ目線に立って小さな声にも耳を傾け、温かく寄り添う姿勢でまちづくりに取り組んでまいります。

民に温かく、そして寄り添う行政の推進に、全力で取り組んでまいります。

そして、一人ひとりが地域に自信と誇りをもっていきいきと輝き、その輝きと当市が世界に誇るたくさんの

今後とも、皆様にはご理解とご協力をいただきますよう、よろしくお願い申し上げます。

地域経済の活性化と、子ども・教育といった未来への投資に重きを置き、この

結びとなりますが、貴会の益々のご発展と皆様のご健康とご多幸を祈念申し上げます。挨拶とさせていただきます。



# 七飯町便り

七飯町長 杉原 太  
(昭和小・大中山中・函館西高)



質的に初めて当初から編成する「通年度予算」を策定させていただきました。

北海道道南会の皆様におかれましては、昭和35年の創立以来、63年もの長きにわたり、「函館市を中心とする道南地区出身者の心のよ

りどころとして、葉袋会長をはじめ、役員、会員の皆様の日頃からのご努力により、会員相互の交流と親睦を深め、「ふるさと訪問旅行」など幅広いご活動を展開され、郷土への思いと道南の振興・発展に特段のご支援、ご尽力を賜り、心から敬意を表するとともに厚くお礼申し上げます。

(5) 昨年(令和5年度)は実

道の中でも温暖な

気候と豊かな水や緑に恵まれ、函館港が国際貿易港として開港した時より、その食糧供給地として農業試験場となる「七重官園」が設置され、日本における西洋式農法を基盤とした近代農業発祥の地です。

また、秀峰駒ヶ岳と大沼国立公園を擁する自然豊かな観光地でもあります。これまでの歴史や文化、豊かな自然環境を次世代に引き継ぎ、子どもから高齢者まで心豊かに暮らせる町、すなわち誰もが「故郷」と

して愛する町をめざして、まちづくりに取り組んでいるところです。

七飯町を取り巻く環境は、2016年3月26日開業の北海道新幹線の車両整備運行拠点である函館新幹線総合車両所の所在地として、新幹線が札幌延伸となる2030年度にはフル操

業となり、この地域に鉄道関連事業を中心とした雇用拡大が見込まれます。新函館北斗駅から札幌駅まで、距離にして212キロメートル、函館から札幌

までの移動時間が約1時間になるなど、現在の約4時間から大幅な時間短縮をもたらす、函館・道南で生まれ育った若者が札幌の大学に通学することや、卒業後には函館・道南に地元就職する可能性も夢のようです。

期待できます。そして、高速道路網では、七飯町を縦断する函館新道から函館新外環状道路函館空港IC及び函館江差高規格道路木古内ICが開通したことにより、渡島松山管内への高規格道路の高速交通網が充実しま

した。

更に、完成後には北海道内で最長となる総延長7キロメートルのトンネル、北海道縦貫自動車道大沼トンネルの本坑工事が令和5年より着工され、今後10年の間に函館と札幌がより身近になります。



道の駅 なないろ・ななえ



来場者数 500万人達成

七飯町の基幹産業である農業・観光においては、新幹線をはじめとした高速交通インフラの充実が食と観光振興の起爆剤となり、事業後継者の育成、持続可能な雇用体制と人材確保による移住定住を促していく上での出発点と考えています。

また、道の駅「なないろ・

ななえ」は、2018年3月23日の開業から今年で5周年を迎え、函館・道南の皆様や観光で訪れた方々に支えられ、5月20日に来場者数500万人を達成しました。隣接する民間活力導入施設の「THE DANK SHAKU LOUNGE」と共に、多くの来場者で賑わっており、道南の親しまれる施設となったことは、大変喜ばしい限りです。

北海道は日本の食糧基地を担い、七飯町の農業は道内で一番早い春野菜の「白カブ」の出荷から始まりました。これから夏、秋にかけては、「大根、ニンジン、ほうれん草、小松菜、長ねぎ、とうもろこし、枝豆な



大沼国定公園 駒ヶ岳

ど」の収穫と出荷が順次始まります。首都圏のスーパーの野菜売り場などでJA新

はこだての「函館育ち」というブランドを見かけましたら、ぜひ、お手に取って故郷を思い出して下さい。

そして、今年度の主な観光行事として、7月29日(土)30日(日)に第114回大沼湖水まつりが開催されます。明治39年、地元のご住

職が灯ろうを湖面に流し、湖の遭難者を供養したことから始まり、大沼の夏の風物詩となっております。また、10月15日(日)には、紅葉の彩る大沼国定公園の湖畔を巡る北海道大沼グレートラン・ウォーク2023が開催されます。湖畔1週14kmのマラソンとウォーキングになります。これからも伝統的な行事や豊かな自然と触れ

合う心豊かな大沼らしい行事を継承できるように取り組んでまいります。

そして今、特に函館・道南の顕著な課題が少子高齢化による人口減少です。

函館・道南の人口は著しく減少していますが、七飯町の令和4年1月から12月末日までの1年間における住民基本台帳人口の移動報告では、北海道内179市

町村のうち、転入者数が転出者数を上回る、社会増となった35市町村の上位5番手に七飯町が入りました。

七飯町は4年連続で社会増を継続しましたが、残念ながら人口総体では自然減が社会増を上回り令和4年12月末日現在で2万7千934人(0.46%)となり、遂に2万8千人を切りました。今、振り返りますと昭和40年代から50年代にかけて、輝いていた30万都市函館市が脳裏に浮かびます。

私は小学6年生(昭和50年)まで函館市昭和町に住んでおりましたが、小学1年生から通っていた亀田町立昭和小学校は、途中で亀田市立昭和小学校となり、卒業時には函館市立昭和小学校になっていました。亀田郡亀田町、そして亀田市は、当時の函館市のベッドタウンとして急速に発展し人口増加が著しく、昭和48年の函館市と亀田市の合併によって函館市は30万都市に発展しました。小学校卒業と共に、母の

実家のある七飯町大中山に転居し、大中山中学校、函館西高校に進学しました。函館西高校ではボート部に入部し、西浜にある新島裏の石碑の所からボートを出して、青函連絡船摩周丸の横で並走したり、七重浜まで手漕ぎで往復もしました。当時の函館港は青函連絡船やイカ釣り船も往来し活気のあった函館の古き良き時代の記憶が懐かしいです。

3年間にも及んだ新型コロナウイルスにより、経験したこの大変な状況が続きましたが、新型コロナウイルス感染症と共存する新たな時代を見据え、感染防止と社会経済活動の両立を図りながら、故郷のまちづくりに引き続き尽力してまいりますので、皆様のより一層のお力添えを賜りますようお願い申し上げます。

結びとなりますが、北海道道南会のさらなるご隆盛と会員の皆様のますますのご健勝、ご活躍を心から祈り申し上げます。

# 洞爺丸事件に遭遇した大叔父 種田静次家四人の思い出

ノンフィクション作家 森本 貞子

(7)

昭和29年9月27日早朝、祖母からの電話。なぜこんなに早く、もしやと思いつながら受話器を取ると、祖母の慌てふためいた声で「何と、としちゃんたち四人、洞爺丸に乗っていたのよ。心配していたけど、やっぱり」と、息を飲んでから「今夜7時発の特急で函館に帰るからね」と言つてガチャンと切ってしまった。私は心配はしていたけれど、まさか、との思いだった。がやはりと息が詰まってしまった。早朝のテレビ放送で洞爺丸が遭難したことは伝えていたが。

種田とし子は私と同じ年の大正14年(1925年)生まれ。私の祖母の弟は双子で兄の種田悦郎は函館日本銀行支店の副支店長として活躍し、その頃は既に退職。弟の種田静次は日露漁業会社に勤務し、たびたびカムチャッカへ出張を重ねていたがやはり退職し、その長女が種田とし子である。函館庁立高女卒業後、すぐ拓殖銀行勤務。10年後には優秀な行員としての活躍から昭和29年29歳で東京拓殖銀行へと転勤を命ぜられたのであった。とし子には2歳違いの妹幾子と弟たち3人。そして末っ子の妹は生まれたときから眼が見えなかった。とし子はあまりにも可哀想な末っ子の妹を「一生世話を」と父の静次と母かねに語っていたのだとのこと。東京勤務に際して、とし子は末っ子の盲目の妹を連れて、決意。両親はせめて現存中はその世話を、とし子と共に東京移住を決意した。とのことであつた。

た。4人とも洞爺丸に乗船していたのである。その夜7時上野駅発の特急列車を見送りに、私は上野駅に走った。祖母はちようど、とし子4人の引越しの手伝いに妹幾子も上京していたので二人での帰函だった。青ざめた顔色の祖母と幾子「大変なことになつてしまったわね」との私の言葉も虚ろにしか聞こえない祖母。祖母は東京在住の三男の家に度々上京しては宿泊していただけに、とし子の東京勤務を知つて遊びに行けると大喜びだった。祖母は函館には次男の家があつた。

祖母の長女で私の母は東京の私の父に嫁いでいたので私は函館の祖父母が懐かしく、毎年の夏休みを祖母のいる伯父の家で過ごしていた。種田とし子は同い年で私とは仲が良く、幼い頃から遊び仲間。八幡様のお祭りには、祖母の自慢の鶏卵料理でもてなすのであつた。甘あんを白玉で包み、すまし汁に浮かせた料理である。私にはとしちゃんとの思い出が次々と浮かんでくる。その日のテレビは繰り返して、洞爺丸事件を報じていた。台風が発達しているのに、甘く見ての洞爺丸出航。台風にあおられて七重浜沖で遭難。乗客千数百人は絶望、と。私は大型船の遭難事故、タイタニック号を思い浮かべていた。1500人の乗客中、救助されたのは70人程、と。洞爺丸事故では種田の目の悪い子を思って身動きできない4人を思い、胸が絞られるよう。としちゃんとの昔

のことが繰り返しい浮かんでくる。私がとしちゃんの家遊びに行くと、玄関先にはポポンダリヤが丈高く咲いていて、大輪の赤、黄、橙色の花々が迎えてくれた。3人の弟たちとともにトランプのばば抜きを楽しみ、としちゃんの母かねの五目御飯のおもてなしの美味しかったこと、懐かしい楽しい思い出が蘇ってくる。函館へ帰った祖母は、弟の銀行の叔父さんと称する種田悦郎大叔父が、遭難した弟の静次大叔父たちの没後の世話をすべてこなし大忙しだったことを私に知らせてくれたのは事故後、かなり経ってから出会った。静次大叔父4人の遺体が見つかったのは、函館湾にそそぐ川の河口だった。しかしこの事故で生還した人数は数人のみで千数百人。絶望の重大事故。何事も日数がかかり4人の納骨が船見町の高龍寺へ治めることができたのは事件後、数ヶ月後のことであつたそうである。



洞爺丸



種田静次の次女幾子はその後根室の家具販売商の方と、知人の紹介で結ばれ、一女に恵まれて幸せに過ごすことができた。静次の長男は銀行家に、次男は東北大学地質学部を卒業後、古河鉱業に就職。その頃、私の祖母は急逝し、その後の一家の噂は遠のいてしまった。

しかし、祖母からの嬉しい知らせが事件直後に届いたのである。

悦郎大叔父の長男の謹一ととし(種田としちゃんと同じ名前)夫妻の結婚式が10月8日との予定だったとし夫人によると、とても無理かしら、と思っていたが、決行することに。祖母の話では「何と見事な結婚式で、事故後であっただけに、誰もが幸せを願って祝福の素晴らしい式であった」とのこと。私もまた思った。悲劇の後の大きな喜びだけに、心中晴れ晴れと、爽やかな想いに浸ることができたのだろうと。心より「おめでとう！」と申し上げたのであった。

## 函館人物誌番外編 戦後函館の本屋風情

道南会顧問 沢株 正始  
幸小出身

長い長いコロナ騒動がとりあえず収まった途端、街も電車も人が増え、おしゃべり復活、急に賑やかさが舞い戻ってきました。でも日本人の律儀さなのか、電車内ではまだ半数ちかくがマスク姿。そして以前よりも目につくのがスマホに没頭の人、人、人……。本を読んでいる人なんて丸で見かけません。

第二次大戦が終って瓦礫の山の掃除が始まり、3、4年もしたら「東洋の奇跡」といわれた経済復興が進みだし、通勤のバス、電車は人の山。そんな中でもぎゅう詰めの中車で新聞、雑誌、文庫本を読み漁る姿が少なくありませんでした。

戦時中から活字に飢えていた日本では、タガが外れたように本が売れだしま

す。まだテレビも普及されず。大人も子供も雑誌に群がった時代です。小学校高学年のころ『少年』『少年クラブ』『冒険王』『野球少年』『面白倶楽部』など何種類もの子供向け雑誌が出ていて、贅沢がいえなかった悪ガキどもはみんなで回し読みをしていました。少し高学年向けの『譚海』も隠れて読んでいた想い出があります。少女漫画雑誌も何種類か出ていましたが、もちろん関心の外。

ちなみに当時、人気の高かった連載漫画は、「いがぐり君」「ジャングルブック」「鉄腕アトム」などで、いつも次号の発売を待ちに待ったものです。

どこの町にも一二軒は本屋があり、西部のはずれ大黒町の実家に最も近い本屋



明治時代の一二堂

は電停終点弁天からすぐの「ビックリ屋」で、弁天神社そばの銭湯鹿の湯と自転車屋の間にあり、この本屋をよく利用していました。

中学生になって漫画はちおう卒業し、少年少女世界名作ものに関心が移っていったところからよく利用したのは、十字街の「一二堂書店」。丸井デパートから通りを隔てた二、三軒目、松柏堂プレイガイドの手前にあった本屋です。当時、西部地区でおそらく一番大きかったと思いますが、ここで講談社の「少年少女世界名作全集」を見つけ、「ああ無常」

『宝島』から始まり、『怪盗ルパン』『十五少年漂流記』『トム・ソーヤーの冒険』、さらには『源平盛衰記』『孫悟空』など、50冊近くを買い求めました。『源平』

のときには店員のおじさんから「ぼうや、こんな本を読んだ、偉いね」と言われ、嬉しいどころか恥ずかしい思いをした記憶があります。「金森一二堂」がこの本屋の前身と思われませんが、目下のところ確認できていません。

年齢とともに視界がひろがっていき、中高あたりからよく入ったのが十字街の「栄文堂書店」、そのころは恵比寿街町通りにありましたが、今は市電通りに移っているようです。この本屋が脚光を浴びた出来事がありました。店主の父の名は岡村昭彦といい、一時、本



屋で働いていたこともあったようですが、昭和40年ころヴェトナム戦争の取材で戦火の真ただ中に単身入り込み、取材の成果を『南ヴェトナム戦争従軍記』（岩波新書）と題して出版し、反戦運動まっ盛りのなか、脚光を浴びたのが印象的でした。その縁でしょう。棚には岩波書店の本が多数ならべられていたようです。

この近く「小島大盛堂」もよく利用しました。大正末の創業で、書棚には新刊本よりも古書のほうが多かった印象が残っています。当時の本屋は新刊も古書も扱っていたところが少なくありません。ここで買ったのがヘーデンの『さまよえる湖』。

この界限で最も興味を持ったのは「浪月堂書店」で、ほとんど古書が中心、函誰でもっとも古い本屋で前身の店は坂の上に建てられたようです。出は愛媛県の大農家でしたが、初代が身上蕩尽した際、叔父が耕作の苦勞を重ねてくれたおかげ

で、医者の子込みから書店勤めをし、心機一転北海道函館へ行って独立の決心を固めたのがきっかけでした。函館名物の大火を何度もくぐり抜けて三代目の今

にいたり、創業百年を機に駒場町電車通りに移転、四代目が杉並町に新店舗を構えるなど、伝統の灯を絶やすことなく頑張っています。筆者は縁があって『函館市史』の手伝いをしたこともあり、浪月堂には何度も足を運んだものです。

松風町電停近くの「森文化学堂」は創業1933年

の古い書店で、内容も実績もある有名店でしたが、出版文化衰退のあおりを受け2003年に倒産。全国の注目を浴びました。

『函館散歩 まちは唄う』（2003年、北海道新聞社刊）は当時のユニークな本屋として、万代町の「神田書店」を挙げています。司馬遼太郎の縁があり、この界限では唯一の書店。

郷土誌『はこだて—自然と文化』第3号（昭和51年1月）に山本幸吉さんが「函館の本屋—古い頃のこと」と題して随筆を寄せていて、

忘れられつつある古い時代のユニークな本屋のことをエピソード交じりで書いています。

少し古い頃の探訪記なので、いまはもうなくなつた本屋もあるかもしれませんが、いくつかピックアップしてみます。堀川町には「いせや」をはじめ数軒あつた

ようですが、このあたりから五稜郭方面はまだ淋しい町並みで、「いわひば」「大衆堂」などがあつた程度、大衆堂の店主は共産黨員だつたようで、何度か捕まったりして、挙句は栄町あたりの鉄工場で殺害され、死体はしばらく隠されていたとか。

鶴岡町（今は大手町）市役所電停前に松山という店があり、主人の本業は靴皮を扱っていて、店のかみさんがやっていたらしい。本はあまり置いてないが、たまたま『海産論』という名著があつたけれど、値段はなんと高かった。今はなき彩華デパートの向かいに新

しく古本屋ができて、結構よい本もあつたけれど、妙な噂が広まり、夜な夜などこかで稼いでくとか、そのうちどうも捕まつてしまつたらしい。こんな話ばかりではありませんが、この山本さんのエッセイは今では聞かれないエッセイがあふれています。

本屋のことは書き出せばきりがなほほど沢山あつたはずです。函館にはいったい何軒の本屋があつたのか、意外に調べるのは容易ではありません。本があまりに売れなくなつた今のはすぐに分かりませんが、古くなるほど実態はつかみにくく、便利なネット検索も最新情報は満載でも、少し古いことはほとんど消えていきます。ゾッキ本（通常の販売ルートから外れた本）を扱う店などはすぐになくなり、街中の小さな本屋は掴みようがないほど沢山あつたはずで、函館文化の縁の下を支えた本屋文化をあらためて探してみたい心境が嵩じています。



函館一二堂（金森）

# 道南会顧問（元副会長） 中村隆俊様の思い出

道南会相談役 沼崎 貞良  
函館師範小出身

中村隆俊様が逝去されま

した。誠に痛恨の極み、心より哀悼の意を表します。

私はいつも「中村会長」とお呼びしておりましたので、以後中村会長と書きます。

昨年12月21日会長秘書・

広瀬様からお電話がありました。「会長が天寿を全うされた。」「会長が天寿を全うされた。」「突然の訃報で「全うされ」の後の言葉は覚えていない。」「身内だけで13日お通夜、14日告別式ですが、

親しかった沼崎さん最後のお別れに来ていただけてませんか」。広瀬さんも涙声であつた。是非参りますと伝えましたが、それ以上返す言葉もなかった。中村会長は長い間の療養生活であつたので、覚悟はしていたが、唯々啞然とした。悲しい、寂しい、悔しい。もっともとお話をしたかった。少しでもご恩返しをしたかった。涙が

止まらない。

お通夜、告別式は東京都杉並区の永福寺で行われ、

道南会葉袋会長と私が参列した。祭壇に飾られた在りし日の会長のお写真は多くの白い菊に囲まれた心優しい笑顔で今にも話しかけて下さるようであつた。私は

永年にわたる感謝を申し上げ、ごゆっくりお休み下さいと手を合わせた。

中村会長（戸田中央総合病院会長）は、兄、弟の三兄弟と共に「中央医科グループ」を築き、日本有数の医療集団とも言われている「医療界の巨星」であつた。「巨星墜つ」とはこのことか。道南会大好きだつた中村会長。後年療養生活に入られても車椅子で時々お顔を見せておられた。永年に亘り物心両面で多大なご指導とご協力を頂きました。改

めて心より感謝を申し上げる次第です。更に付け加えれば母校函館東高校は勿論、故郷函館市に対しても巨額な寄付等なされました。

斯様な大人物でありながら、いつもにこにこ、私のような出来の悪い人間や、どなたでも分け隔てなくお声を掛けてくれる心優しい私の最も尊敬する大先輩でありました。

忘れもしない平成17年11月18日、道南会恒例の行事で由緒ある埼玉県新座市の名刹平林寺を訪問した。散策後広場で各自持参の昼食、その際近隣の戸田医科グループのスタッフが大きな鍋で豚汁をご提供してくださいました。少々寒い日だつたこともあり絶品であつた。その後中村会長のご案内で朝霞台病院と東所沢病院の最新施設やリハビリ病棟等を見学、東所沢病院会議室で休憩、お茶をご馳走になつていた時、突然中村会長が現れた。「今日は沼崎君のお誕生日です。皆さん御祝いしましょう」とパースデーケー

キを差し出した。どうして皆さんの誕生日を知らなかったのか突如のことでも私もびっくり、感謝、忘れられないパー



廣瀬 2017.7.7 渋沢栄一賞道南会、青雲会と

スデーとなった。

戸田医科グループでは、毎年春は病院対抗の女子ソフトボール大会、秋は大運動会が戸田市道満球場で開催される。あの広い道満球場を貸し切り、入り口には救急車が赤いランプを点灯し、正に大病院の壮観な行事である。私は毎年ご招待を頂くので楽しく参加しているが、私の家が遠いことを中村会長が心配し「アクセスは大丈夫か、車の手配は良いのか」といつも広瀬秘書さんへ仰っていたと聞いた。これも中村会長の優しさの一端である。

中村会長を語るには「戸田中女子ソフトボール部」(正式名・戸田中央メデイクス埼玉)について書かなければならない。創立以来やがて50年を迎えるが、中村会長は強い時も弱い時も常に心血を注ぎ暖かく見守ってきた。現在JDリーグ(一部)にて活躍中で、かつてはオリンピッククヘ2人、選手を派遣した名門チームです。私の知る限り三度故郷

函館で遠征試合をした。私も芸能人の追っかけよろしくその都度応援に駆けつけた。一度はオリンピックでの最優秀選手に選ばれた上野投手をノックアウトし快勝した思い出がある。また、この遠征では函館市長始め市役所関係幹部、殊の外、東高校OBの函館観光協会専務理事布谷氏、函館山ロープウェイ専務桜井氏には格別のお世話を頂いた。桜井氏のご招待で函館山の夜景を見た選手たちは忘れられない函館遠征だったと思う。これも偏に先輩中村会長へのご配慮の賜物だったと思

う。このチーム、昨年はやや低迷していたが、今年は新人選手の活躍もあり、リーグ上位に位置している。「フーフレー戸田中」とよく会長と肩を組み応援したのが懐かしい。残念ながら最近は首都圏での試合が少なく、インターネットで応援し一喜一憂している。

中村会長は、ご功績に対し数々の賞を受けられた。埼玉出身の実業家渋沢栄一

翁の精神を受け継ぐ全国の企業経営者に贈られる「第15回渋沢栄一賞」の顕彰を授与され祝う会が平成29年7月7日浦和ロイヤルパインホテルで開催され、約200人が参加された。函館市、中林副市長、大泉観光部長(現市長)、堀田こども未来部長がご出席された。

実はこの会の開催の一月ほど前に広瀬秘書から当日友人代表としてご挨拶を依頼された。私は「その任に非ず、諸先輩ご適任の方がおられます」と固辞した。しかし会長のご意向なので申され僭越ながらお受けした。

この日、中村会長ご自身が車椅子でご不自由な体にも拘わらず、謝辞として受賞の喜びと皆様への感謝の気持ち forcefully 述べられた。私はその姿に目頭が熱くなった。埼玉県知事、戸田市長、県医師会長等々が祝辞を述べられ祝宴に入った。祝宴の途中、ソフトボール部の皆さんがユニホーム姿で登場、エールが贈られ花を添えた。更に病院関係

の皆さんの挨拶に続き、「中村会長の古くからの友人沼崎様にお願ひします」とアウンスされた。やや震える手でマイクを握り、数々の受賞に対し祝意と、会長のお人柄等々函館弁を交えて話し、皆さんがこんな

会長を応援しています「もっともっと会長頑張るべー」で締めた。後日広瀬秘書から「会長は時々ビデオを見て涙を流してますよ」と聞いた。勿論話の内容ではなく、久し振りに聞く函館弁を懐かしく聞き、函館を思い出したに違いない。やはり中村会長は函館大好き人間だったのだろう。

中村会長が大好きだった「新宿高野のゼリー」をぶら下げ何度伺っただろう。行けばいつもここにこに笑顔で握手をしてくれた。その力強さはとても高齢者と思えない力強さ、そして温もりは忘れられない。「何かあったらすぐ来なさい」私は脳ドックに二度、整形外科、耳鼻咽喉科でもお世話になった。もうゼリーをぶら

下げて行くこともない。寂しい限りだ。お別れの会は3月21日ホテルニューオータニ鶴の間で盛大に開かれた。中村会長の遺徳を偲び大野埼玉県知事を始め約二千数百人が参列された。道南会から薬袋会長を始め多くの方々、会長の後輩函館東高校関係の方々、函館市からは当時の工藤市長始め幹部の方々、市OBの方々も多数参列され別れを惜しんだ。

私は思い出の記や追悼文に「生者必滅会者定離」と必ず書きます。この言葉は大自然の摂理であり如何ともなしえ得ない言葉であります。中村会長が愛された道南会への情熱は関係者一同確かに引き継ぎましたのでご安心下さい。永遠の夢路につかれた中村会長のご生前を偲び数々の恩顧に応えるべく思いを新たにし敢えて拙文を綴り御霊に捧げご安眠を心よりお祈り申し上げます。さようなら中村会長。合掌

合掌



## 故高橋順吉様、故室谷邦雄様 そして故中村隆俊様を偲ぶ追悼記

酒井 哲美  
旧南茅部町磨光小学校

昨年12月中旬、北海道新聞に故中村隆俊さんの御訃報記事が掲載され大変驚きました。御逝去へのお悔や

みのとき、後日「道南」新年号が手元に届き、表面そして最終面を拝見したとき故高橋順吉さん、故室谷邦雄さんの御訃報にも接し改めて大変驚きました。

ここに故人各位とのご交誼を思い謹んで哀悼の誠を捧げ心よりご冥福をお祈りします。

最初の出逢いは二十年前になります。二年間の東京勤務の頃、道南各地の出身者が集う北海道道南会のほか函館の一部小学校と各高等学校の東京同窓会から案内状を頂き、会場に参列し各位と御挨拶を交し面談したのが最初の出会いです。その後回数は多くないですが各位と懇談を深め気心が

通じ合える機会に恵まれました。当時を回顧し各位への感謝の念と懐かしさを偲びお悔やみ申し上げます。

故高橋順吉さんとの思い出  
高橋順吉さんは道南会総会懇親会においていつの時から最後の締め括りに応援団長として登壇し、道南会の益々のご繁栄とそして会員皆様のご健勝ご多幸を祈念し、「フレー！・フレー！」と盛り上げ応援をしておりました。



高橋順吉さん

また私が在京2年目の函館西高校つじヶ丘東京同窓会懇親会会場の東京霞が関ビル最上階東海大学ホールに於いて、また最近は東京椿山荘の会場でも、そして地元函館本部同窓会会場の五島軒に列席の時にも、宴会の締め括りは高橋応援団長が登壇し何時も「張りのある高い響き声」で校歌や応援歌で参列者を先導鼓舞し会場を盛り立て、同窓会本部と東京支部の発展そして会員皆様に応援してくれていました。今この時、あの「響き声」が何よりの思い出として聞こえる気がします。

高橋さんは二年毎に開催する函館西高校東京同窓会の立ち上げに際し、西高校の前身II高等女学校も含む会員募集に不断の努力を重ね会員数増加に貢献しており、後に関東支部事務局長そして副会長を歴任されておりました。

在京2年目に同窓会宴会に参加した記憶では300人超が参集し大盛況な宴会運営でした。実はこのとき

高橋さんから私にも、同期18回生の参加者増の依頼があり、函館からの参集も了解して頂き地元への連絡で20人が上京に並び、東京支部の同期含め50人超のメンバーが宴会参加し二次三次会と愉快に楽しんだ訳です。懐かしさとこの友人知人の繋がりで旧交が確かめられ、この時その大切さが次に続くことを高橋さんのお陰で再認識し新しい交流で有益な情報提供を受けるなど東京の仕事にも本当に効果を感じ感謝でした。

このように普段は人付き合いが良く本当に世話好きにも話を良く聞き説得力あるアドバイスのなのお話しをされ、宴会後の直来でよくお聞きしました。高橋さんとはコロナ禍前の道南会宴会そして直来とカラオケを楽しんで色々話し合ったのが最後のお付き合いでした。

道南会会報で訃報を知り、その後西高同窓会関東支部会報で新たな事実も知りました。実は高橋さんご家族は、奥様がご病気で既に御

逝去され、長男家族が近くに住みご自宅は高橋さんご本人だけでの生活でした。何時も賑やかさが見えつつも、高橋さんは一人で生活していた中、寂しく御逝去されたそうです。本当に悲しいお知らせでした。察するに、本人が一番残念無念であったと思うと本当に胸と心を打たれます。高橋さんの心の中が寂しかったことを思いますと本当に込み上げるものがあります。でも気持ち強い方でした。

函館西高校2年先輩の故高橋順吉様、まだ若すぎる75歳での早すぎる御逝去は本当に残念でなりません。心よりご冥福をお祈り申し上げます。道南会と函館西高校つじヶ丘同窓会を引き続き見守って下さい。どうかよろしくお願ひします。

—合掌—  
故室谷邦雄さんとの思い出

道南会名誉会長の室谷邦雄さんとの出会いは、東京に赴任して間もなく当時の道南会田沼会長から歓迎夕食会へお招き頂いた席上、道南会役員皆様と共に名誉





室屋邦雄さん

会長の室谷さんをご紹介して頂きました。函館日銀支店長ほか各都市同支店長や日銀本店の要職に御就任されていた方とご紹介を受けたのが最初でした。

初対面での懇談では大変穏やかな方で本当に優しさを私は感じました。そして函館勤務の時の色々懐かしのお話しをお聞きしました。また室谷さんがお住いの松戸市に函館出身者が集う憩いの場「まつど函館村」を創立し、初代村長さんとして、参加の村人皆さんと愉快に楽しんでお話しもお聞きしました。

日を改め、室谷村長さんからまつど函館村の月例会にお誘いを受け、土曜日松戸市役所正面で待ち合わせ、向かい側の「函館村仮事務所」で当時の函館近況を私からお話しし、村人

皆さんと昼食を囲みながら楽しく懇談したことを懐かしく思い出します。

この出会いから月例会では小野寺助役さんとも懇意にご交誼を重ね何時しか、まつど函館村では安堵感の気持ちを感じたことが思い浮かびます。さらに時を経て、私が東京勤務を終え函館へ帰任する際には、3月好天氣の公園内で村人皆様に囲まれお別れの会を開催していただき沢山の楽しい思い出が「まつど函館村」と一緒に心の中に残っています。

そう云う懐かしさが込み上げ今まさに室谷さんと「まつど函館村」に本当に感謝です。

優しい笑顔の写真を拝見し思ったのです。

室谷さんは私の人生32年もの年上の大先輩ですが、大分年下の私にも本当に気さくにそして優しくさらには懇意に接して下さいました。ですからこの先においても本当に忘れることの出来ない感謝に堪えない方なのです。

105歳の天寿を全うさ

れた故室谷邦雄様、お逢い出来てお話をした回数は多くはありませんが、本当に憧れを感じる心優しいお付き合いと、ご懇談の際は若輩者の私に大変有意義なお話しを惜しみなく語って頂き有難うございました。お疲れのお体をゆつくり休めて安らかに眠り下さい。ここに感謝と御礼を申し上げます。

道南会第四代会長・名誉会長、そしてまつど函館村創立者・初代村長・名誉村長の故室谷邦雄様、引き続き道南会とまつど函館村を見守って下さい。よろしくお願ひします。

—合掌—  
故中村隆俊様との思い出

戸田中央メディカルケアグループ名誉会長中村隆俊先生との出会いも、やはり道南会と函館東高校関東青雲同窓会へ参列した時です。

中村先生は会長として同窓会の人の繋がりを大切に、夏・秋の年2回だと思いますが、それぞれ別会場で同窓会の集いを開催し、私の在

京2年間で4回参加したと記憶しています。最初の時、同窓会幹事長で活躍していた豊島区の今は亡き東洋興産社長の故田村良人さんを先生からご紹介して頂きました。年齢が少し近い先輩で、早速意気投合し公私共にご交誼を重ね、道南出身者の方々との交流や企業誘致など参考となる幾つかの情報提供もしてくれました。故田村幹事長さんへのお礼と中村先生のお陰でもありご両人には公私共にお世話になった感謝と懐かしさを感じます。

次に、医療面からの思い出になりますが、実は青雲同窓会と道南会でも、御挨拶と少しの懇談で、中村先生から病院見学のお誘いを受けて二〜三度訪問したことがあります。

そして当時の医療の現況や課題など、医療に臨む先生の思いや考えそして姿勢などについてお話しを聞くことが出来ました。

当時から医学におけ

る医療機器の進化、医療技術の高度発展は目覚ましいものがあります。中村先生は医学の進歩に医療の高度化を地域医療に反映させる使命感を力説しておられ、「病院は患者と地域を愛し、患者と地域から愛される病院づくり」を指すと、戸田中央総合病院の高度医療実践推進に強い意欲を持たれていた一方で、将来の地域医療の重要性と高齢者医療や少子化の影響など医療



せたな町・三本杉岩

の将来へ懸念も示されてい  
ました。その際、私の国民  
健康保険や老人・乳幼児の  
医療制度など市役所での業  
務経験を受け止めて頂き、  
大変興味深く指導的に懇談  
して頂いたのです。中村先  
生は特にそのため「医療  
と看護」の重要性に意を注  
ぎ、人材の新規確保と育成  
にも力を注ぎ、例えばその  
ための側面からの対応策と  
して、戸田医療グループ職

員スポーツ競技振興と福利  
厚生に意を配しているほか、  
日頃の医療と看護や事務等  
従事職員を慰労する病院グ  
ループの運動会なども開催  
してまいりました。私も招待さ  
れ競技参加するなど公私  
共々にお誘いを受け楽しく  
過ごした記憶があり、時々、  
自分の病院通いの時に思い  
出します。

こうした状況を知ってか  
ら、私なりに自分自身に関  
わることで気づいた事があ  
ります。

それは、医療に限らず私  
自身の今の仕事や普段の生  
活で自分が物事を考え進め  
る上で自分の身と心の中に

当然あるべきことなのでは  
と反省の思いを覚えたもの  
です。つまりそれ迄の私が  
田舎育ちの「井の中の蛙」  
で函館に出てからも高校と  
役所生活だけだった反面、  
東京勤務では立場や年齢差  
がある方々との新しい出会  
いとその繋がりも懇意に続  
くようになり、お陰で自分  
が少しは成長したのではと  
時々思う前向きな気持ちを  
感じたのです。

このように自分自身を感  
じることが出来るように  
なったのも、中村先生と医  
療面をはじめ色々懇談で  
きたお陰とっております。

またその後暫くしてから  
の別な機会の出逢いの場に  
なりますが、函館千代台野  
球場で開催された日本女子  
ソフトボールリーグ戦の  
際、戸田中央総合病院ソフ  
トボール部チームが中村先  
生を筆頭に来場され、この  
時は2010年9月で、中  
村先生は、私が函館市職員  
を定年退職していたにも関  
わらずお誘いの声掛けをし  
てくれたのです。このリー  
グ戦で戸田医療チームは強

豪二チームと連戦し二連勝  
したので。選手共々、中  
村先生と当時お元気でした  
今は亡き故西尾正範函館市  
長ほか大応援団は喜びに沸  
き大盛況だったのです。夕  
方には祝勝懇親会を開催す  
ることになり私もご案内を  
頂き参列致しました。先生  
のご配慮と本当に優しいお  
気持ちに感謝と共に改めて  
頭がさがりました。この夕  
食懇親会のほか別な席でも、  
先生と久しぶりの出逢いで  
あり再度、医療やスポーツ  
面の話しを当時病院等で面  
談したことを懐かしみつつ  
お話しをしました。

中村先生は「人づくり、  
そしてチームづくり」「チー  
ムを愛し、愛されるチーム  
づくり」と強調してお話し  
をしてとても印象的でした。  
またこの時にも「病院は  
患者と地域を愛し、患者と  
地域から愛される病院づく  
り」そして「医療を愛し、  
医療で患者と地域を愛する」  
と病院で面談した時の話題  
も話したのです。

このことはスポーツ面  
でも、医療面でも、そして如何

なる面においてもその原点  
としては「人づくり」が基本  
であると中村先生はお話し  
をしてくれたのだと私は自  
分なりに理解し受け止めて  
います。そして今、私が先生  
を思う気持ちは何時も温和  
な優しい笑顔で面談して頂  
いた一方、非常に強いお気持  
ちで一途に医療に向き合い  
自らが強く信じる「医療と看  
護」の道を今なお開拓し続け  
ている先生の姿勢に感銘を  
受けました。本当に「誰をも  
愛し、誰からも愛される方」  
だと思い、先生への憧れと共  
に私の心の中で大事にして  
いるのです。

このように縷々思い起こ  
した内容の原点とも云える  
事案についてここで紹介し、  
少しでも皆様のご理解と中  
村先生を偲ぶお気持ちに叶  
うよう念願しここに書き残  
します。

実は4年前になります、  
道南会で檜山管内のせたな  
町に「ふるさと訪問」をし「三  
本杉岩」を見学する予定で  
したが、残念ながらコロナ  
直後で中止となりました。  
皆様ご承知の通りせな

町は中村先生の生まれ故郷  
です。ですから先生はふる  
さと訪問する意向だった筈  
と思つて、さぞかし残念だつ  
たでしょう。この「三本杉岩」  
について私が聞いたことが  
ある「三人寄れば文殊の知  
恵」とか「三本の矢」とか？  
正誤は別として、後者が同  
じ謂われの話題だと知つて  
いたので、埼玉戸田総合病  
院グループの中村先生三兄  
弟に通じる「三本杉岩」の「良  
き噂話」について、その裏  
付けとなる北海道新聞夕刊  
記事(2023.5.12「まど」欄)  
の要点を紹介します。

「中村隆俊さんは、故人で  
兄の哲夫さん、弟の秀夫さ  
んと3人で力を合わせて巨  
大医療グループを築き上げ  
た。その原点は幼少期にあ  
る。3人で兄弟げんかする  
と父親に三本杉岩まで連れ  
て行かれ、戦国武将の毛利  
元就の「三本の矢」の逸話  
を引き合いに「3兄弟が力  
を合わせればどんな荒波も  
乗り越えられる」と諭され  
た。隆俊さんは生まれ故郷  
をいつまでも忘れませんで  
した。」(抜粋参考記述)

そしてこのような色々な経過を辿りながら3月21日が近くなってきたのです。

実は、道南会葉袋会長の配慮を賜りこの中村先生との「お別れの会」の日に道南会役員皆様とご一緒に参列することができました。本日に感謝を申し上げます。当日は会場正面の大きな顔写真と映像を多数の参列者皆様と見つめながら、私も中村先生のお人柄を偲び心よりご冥福をお祈り申し上げ追悼の意を表して最後のお別れをしたのです。

道南会顧問、函館東高校 関東青雲同窓会会長・名誉会長、戸田中央メデイカルケアグループ創業者・会長・名誉会長の故中村隆俊様、大変お世話になり感謝と御礼を申し上げます。これ迄にも増して道南会と函館東高校関東青雲同窓会として戸田中央メデイカルケアグループを引き続き見守って下さい。どうかよろしくお願ひ申し上げます。

最後にになりますが、私の思いとして東京赴任中の道

南会との繋がりは、仕事上の勉強となりその後の人生の糧となつていく訳です。

そして今なお会員として道南会の一員でいることに意義と幸せも感じております。それと云うのも私が大変お世話になつた道南会の先達者、故田沼修二様、故川守田孝平様、故早坂茂三様、故島田瑞子様各位につきまして改めてここに回想されるのです。

そしてこの度の故高橋順吉様、故室谷邦雄様、故中村隆俊様各位とのこれ迄の繋がりを想い起こし感謝の気持ち捧げつつ新たな先達者として私の心に刻まれた訳でございます。

どうか何時いつまでも東 京道南会と函館市双方のご繁栄とご発展のために、先達者皆さんで相談し合つて見守つて応援して下さいますようよろしくお願ひ申し上げます。

ここに謹んで先達者皆様へ哀悼の誠を捧げ心よりご冥福をお祈り申し上げます次第です。

### 令和5年・6年度 役員名簿

令和5年及び令和6年の役員構成は、以下の方々です。よろしくお願ひいたします。

◆会長 葉袋 泰

◆副会長 三村寿雄

◆会計監査 本間和吉(新任) 新山春一

◆常任幹事

菅原大作

川守田礼子

山田克明・須藤珠美

続 薫・富岡信夫

和田史郎(新任)

◆幹事

古井勝春・比嘉裕子

泉 龍夫・川瀬俊吉

高橋厚子・檜森元

福地史人・今井雅子

成田きよえ

柳下五百子

野口晴雄

◆顧問

篠崎昭彦・松田昇

新谷義克・郷内繁

朝倉敏夫・澤株正始

南谷光一・石戸六男

◆相談役

沼崎貞良

## 暑中お見舞い申し上げます

朝倉 敏夫 浅野 允佑 石戸 六男

泉 龍夫 今井 雅子 岩村 昌治

岡本 信三 笠川 雅彦 金子 忠雄

川瀬 俊吉 川守田礼子 木村 征

小林智恵子 小山 和彦 郷内 繁

酒井 哲美 佐々木俊克 佐藤 弘欣

澤井 隆 沢株 尚子 沢株 正始

白川 正広 新谷 義克 菅原 大作

須藤 珠実 高橋 厚子 続 薫

富岡 信夫 新山 春一 沼崎 貞良

沼崎 茂子 野口 晴雄 比嘉 裕子

檜森 元 福地 史人 古井 勝春

本間 和吉 松田 州平 松田 昇

葉袋 泰 南谷 光一 三村 寿雄

森本 貞子 山田トミ子 和田 史郎

# イカの思い出

泉 龍夫  
幸小出身

昭和27・28年頃と思います

が（S 29年の洞爺丸台風前の記憶と思う）、私の実家（今はありません）の近く徒歩5分の所に、入舟漁港があります。

入船漁港はイカ釣り漁船の係留地なので漁船が満隻でした。

イカ釣り漁船は毎年能登半島方面から来て、7・8ヶ月間函館にイカ釣り漁で出稼ぎに来てました。

漁船は夕方出漁し、翌日朝にイカを釣って帰り、岸壁に置かれたイカ籠に山ほど入っていたのが一生忘れられない光景が残っています。

トラックなどがない時代でしたので、イカ籠を馬車に載せてイカ処理場に運ぶのですが、籠にはイカがあふれかえるほど入っていたので、馬車が動き出すと時々イカが荷台からこぼれ落ちていました。しかし道々にイカが落ちていても誰も拾う人がいないのです。食糧難の時代だったのに今思うと

不思議な光景でしたね。

それもその筈、イカ処理場は沢山あり、主に女子が処理をしていたのですが、処理場ではイカを割きゴロを手早くもぎ取っていました。その手さばきの早さに子どもに感心していました。仕事終わりにそのイカを貰って帰宅したのですかね。刺身では無理がありますね。

また、船からイカを下ろした時に顔見知りがあると、4〜5杯手渡してくれ、それを刺身にして食べていた様に記憶しています。

町中ではイカを売り歩く商人が「イガ、イガ」（イカと言わない）と売り歩いていました。何と懐かしい言葉でしょうか、郷愁を感じます。

しかし、現在は、十数年来のイカの不漁が続いていて漁業者及び水産加工業者が行き詰っており、苦労が続いているようです。早く水温が昔に

戻りイカが大量に取れる事を念じて止みません。

あのあめ色に輝くイカ刺しを、どんぶり飯に大量に入れシヨウガを入れて腹一杯食べたいと思っています。その一方で、思い出すことはイカが大量に取れ過ぎて処理出来ず、取れ過ぎたイカを漁船に再び積んで海に捨てに行くというところもありました。また、イカが大量に取れすぎたあたりで、イカ漁を3日位休業していたという記憶も鮮明に残っています。

また、イカ祭りと呼ばれる港まつりとは別に、どつく前電停の広場で各種演芸や相撲大会が行われましたが、小学4年の時、6年生を3人投げ

飛ばして、商品として木のサンダルを貰って喜んだ事も忘れられないヒトコマです。

今はイカに変わってブリが大量に取れており、このブリをどの様に処理すれば商売になるのかを模索している様ですね。

現在、函館は観光で潤っていますが、やはり魚、ことにイカ漁で頑張ってもらいたい函館でありたいと思っています。

## 東京東川会が解散

東京東川会（松田州平会長）は、旧函館市立東川小学校の関東地区同窓会として、2001年3月の旧東川小学校の閉校を機に、2002年6月に結成されました。そして、2019年までは主に毎年恒例の総会を開催して活動を継続してきました。

しかし、2020年以降はコロナ禍により活動を自粛しておりました。今年4月15日に東京東川会の世話役が集まって、東川会の活動継続の可否について討議を行いました。その結果、世話役後継者がおらないため、4月末日をもって「東京東川会」を解散することが決定しました。

## 編集後記

◎今年3月に行われた野球の世界大会（WBC）では、大リーグで打に大活躍して注目されている大谷翔平選手を中心に「プロ野球選手達は「侍ジャパン」として逆転サヨナラ勝ちをするなどをして見事に優勝。世界一になりました。久し振りの快挙でした。

◎新型コロナウイルスは、病気の分類が管理の厳しかった2類からインフルエンザと同類の5類へと変更されました。マスクの使用は個人の自由、宴会なども特別な制限などがなくなりました。さらに、国内旅行や外国人観光客の入国規制も撤廃されました。その結果、「コロナの流行前の水準近くまで、人の流れが回復してきました。

◎昨年12月9日に中村隆俊顧問が死去されました。今号では、皆様から寄せられた追悼文を中心に構成しました。

◎会報では、皆様からの身近な話題を中心に作成したいと考えております。引き続きご投稿をお願いいたします。

### 会報「道南」

5年・夏号・通巻78号

発行 令和5年8月1日  
発行所 北海道道南会事務局  
茨城県取手市西

1-6-C-907

葉袋 気付

印刷所 富士製版印刷㈱

世田谷区上野毛4-13-11



函館入船漁港